

今号の主な内容	
3面	ISO14001を推進しています 22年度の区の環境改善結果
3面	行政評価(内部評価) 実施結果をお知らせします
4面	65歳以上の方へ 介護保険料の納め忘れにご注意を
8面	「万引きを許さないまち」を宣言
8面	区立小学校 一斉学校公開と学校説明会

広報 しんじゅく

「新宿力」で創造する、
やすらぎとにぎわいのまち

平成23年(2011年)

8・15

第2004号



しんじゅくコール
☎(3209)9999 FAX(3209)9900
土・日曜日、夜間もご案内 午前8時～午後10時

発行 新宿区 編集 区政情報課 (毎月5・15・25日発行)
〒160-8484 新宿区歌舞伎町1-4-1 ☎(3209)1111
ホームページ☎ <http://www.city.shinjuku.lg.jp/>
携帯電話版☎ <http://www.city.shinjuku.lg.jp/m/>



携帯電話用二次元コード

新宿中央公園の平和の鐘



かけがえのない平和 未来のために 平和の大切さを次の世代へ

終戦から66年目を迎える日本は、東京大空襲や沖縄戦、広島・長崎への原爆投下など、史上類をみない惨事を経験した一方で、アジア諸国などに大きな被害を残しました。新宿区内も、空襲でほとんどの地域が焼き尽くされました。こうした悲惨な出来事も、次第に遠い過去のものとなりつつあります。

平和な世界を築き上げるには、私たち一人一人が常に平和の尊さを認識し、戦争がいかに多くの悲しみをもたらすものか、語り継いでいかなければなりません。平和の大切さをともに考え、二度と起こしてはならない戦争の悲惨さを、次代を担う子どもたちに語り継いでいきましょう。

★2面には、今年の広島への平和派遣で、被爆した方から子どもたちが伺った戦争の体験談を掲載しています。

【問合せ】総務課総務係(本庁舎3階) ☎(5273) 3505へ。

新宿区平和都市宣言

世界の恒久平和は、人類共通の願いである。

私たちは、世界で唯一の核被爆国民として、自らも戦火を受けた都市の住民として、戦争の惨禍を人々に訴え、とともに、永遠の平和を築き、この緑の地球を、次の世代に引き継ぐ責務がある。

国際平和年にあたり、私たちは、人類の生存に深刻な脅威をもたらす、すべての国の核兵器の廃絶を全世界に訴え、世界の恒久平和の実現を心から希求し、ここに新宿区が、平和都市であることを宣言する。

昭和61年3月15日

新宿区

新宿区は、国連が定めた国際平和年にあたる昭和61年、すべての国の核兵器廃絶と世界の恒久平和の実現を願い、3月15日の区成立記念日に「新宿区平和都市宣言」を行いました。宣言の趣旨を広く区民の皆さんに知っていただくため、平和の尊さを訴えるさまざまな事業を開催しています。

また、平和を願う区民の意思をアピールするために、区役所本庁舎前に「宣言記念板」「平和の灯」「平和の泉・平和祈念像」、新宿中央公園(西新宿2-11)に「平和の鐘」、区立小・中学校等区の施設に「平和宣言板」を設置しています。



区役所本庁舎前の
平和の泉・平和祈念像

平和派遣報告会・平和映画会

平和の尊さをともに考えてみませんか。当日直接、会場へおいでください。

【日時】9月25日(日)午後1時30分～4時30分

【会場】四谷区民ホール(内藤町87)

【共催】新宿区平和派遣の会

【問合せ】総務課総務係へ。

▶先着400名。未就学児も入場できます。

▶託児あり(2歳以上・要予約)。

第1部 平和派遣報告会

今年の平和派遣に参加した親子(2面参照)が「語り部」となり、広島で学んだことを発表します。

第2部 平和映画会「おとうと」

監督/山田洋次、出演/吉永小百合・笑福亭鶴瓶・蒼井優・加瀬亮ほか



© 2010「おとうと」製作委員会

平和のポスター展

区立学校の小学4年生～中学3年生を対象に、毎年「平和のポスター」を募集しています。今年は応募作品1083点から、最優秀賞7点・優秀賞24点・優良賞51点・佳作163点を選びました。最優秀賞・優秀賞・優良賞の作品を展示します。

【日時】8月19日(金)～9月2日(金)(土・日曜日を除く) 午前8時30分～午後5時(火曜日は午後7時まで)

【会場】区役所本庁舎1階ロビー

【問合せ】教育支援課教育活動支援係(新宿コズミックセンター4階) ☎(3232) 1054へ。

区長 中山 弘子

残暑の中での節電の夏、熱中症対策が大切です。外出時は帽子や日傘、室内では扇風機やエアコンを上手に活用しましょう。涼しい服装で、十分な水分補給を心がけてください。酷暑の避難場所として、高齢者福祉施設等もぜひ活用してくださいね。さて、新宿駅東口駅前に「ムーラン・ジュ」を「新宿座」という劇場があったことをご存じでしょうか。フランス語で赤い風車、パリの有名なレビュー劇場にちなんで、屋上に赤い風車も据え付けられ、昭和6年に開業しました。▼新宿が山の手を代表する盛り場として発展する中、「空気、めし、ムーラン」とのキャッチフレーズで、都会生活になくてはならない新宿文化を発信していました。哀愁と風刺を込めたムーラン調と呼ばれる軽妙で洒落た軽演劇やレビューは、学生やサラリーマンから絶大な人気を博したとのこと。新宿区でその生を終えた歌人の斎藤茂吉も、「新宿のムーラン・ルージュのかたすみゆふまぐれ居て我は泣きけり」という歌を残しています。▼昭和26年に他の娯楽との競争に敗れて閉館しましたが、伊馬春部や森繁久彌等の多くの作家や俳優を世に送り出しました。開館80年に当たる今年、当時のトップスター明日待子さんや関係者の証言、当時の写真、芝居の再現などによるドキュメンタリー映画「ムーラン・ジュの青春」が完成しました。▼来月17日から、新宿駅東口のケイズシネマで公開されます。この映画から、新宿の発展と芸能文化を振り返ってみたいと思います。